

「再生可能エネルギーの大量導入に向けた  
次世代電力ネットワーク安定化技術開発事業」の概要

1. 実施体制

慣性力等の低下に対応するための基盤技術の開発

東京電力ホールディングス株式会社（幹事法人）	九州電力株式会社
東京電力パワーグリッド株式会社	株式会社東光高岳
東北電力株式会社	国立大学法人九州工業大学
中部電力株式会社	学校法人早稲田大学
関西電力株式会社	国立大学法人東京大学
中国電力株式会社	

配電系統における電圧・潮流の最適な制御方式の開発

一般財団法人電力中央研究所（幹事法人）	東京電力ホールディングス株式会社
公立大学法人大阪 大阪府立大学	東京電力パワーグリッド株式会社
学校法人早稲田大学	

高圧連系 PCS における電圧フリッカ対策のための最適な単独運転検出方式の開発

東京電力パワーグリッド株式会社（幹事法人）	株式会社ダイヘン
-----------------------	----------

2. 研究期間

2019年6月25日～2022年2月（予定）

3. 事業概要

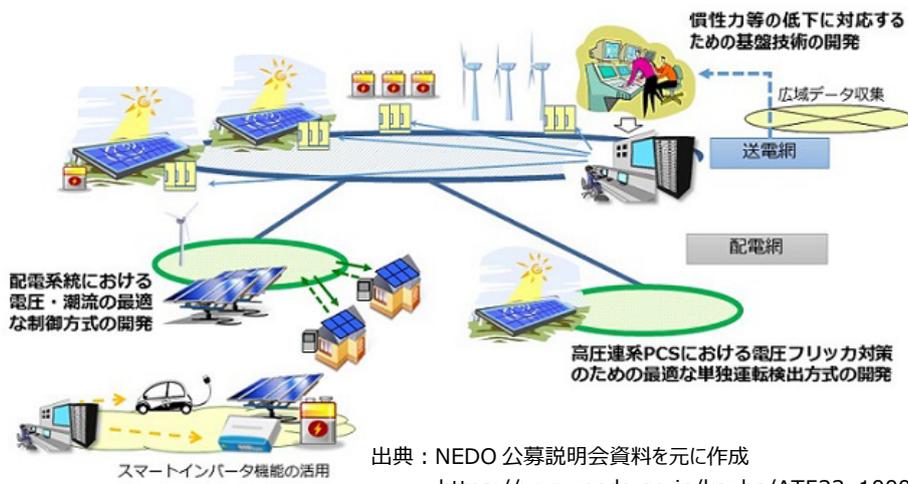
本事業では、再生可能エネルギーの導入を将来的にも可能とするため、次世代の系統安定化に必要な基盤技術の開発を実施する。

< 研究開発項目 >

送電系統では、電力系統の慣性力の把握手法や可視化による運用手法の確立、ならびに電力系統に慣性力を提供可能とするための基盤技術を開発する。

< 研究開発項目 >

配電系統では、再エネが大量導入された状況下で適正電圧を維持しつつ、電圧フリッカ等の電力品質上の問題を回避するために必要な技術開発を実施する。



出典：NEDO 公募説明会資料を元に作成

[https://www.nedo.go.jp/koubo/AT522\\_100089.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/AT522_100089.html)

## 事業イメージ

以上